

## 2010年3月期 第3四半期決算電話説明会 質疑応答

実施日：2010年2月4日(木)

当社説明者：取締役執行役員 横田明宜、IRグループマネージャー 上田孝一(司会)

以下は、決算電話説明会における主な質疑応答を取りまとめたものです。

Q1) ホテル事業は、11月予想を上回っているものの、対前年を下回っているようだが、どういったテコ入れ策を打っていくのか。

A1) ホテル事業は、11月予想をやや上回って推移した。第1四半期は、25周年の翌年であることに加えて、新型インフルエンザや、外部ホテルの値下げなどの外部環境が厳しかったため、計画を下回った。ディズニーホテルは、ブランドを維持するためにも単価を維持する一方、テーマパークのコンテンツと結び付けた施策を行うことで魅力度を高め、稼働率を上げていく。前期の25周年レベルまで一気に回復するというのは難しいが、これまでの施策を継続し、更に今後の周年イベントなどを生かすことで、将来にわたって、しっかりと単価を維持し、一定の稼働率をとっていけると考えている。

Q2) シアトリカル事業についても景気の影響を受けていると思うが、どういったテコ入れ策を打っていくのか。

A2) シアトリカル事業はやや苦戦している。ここにはいくつか要因があるが、一番は「ZED」の認知である。その他には、現在行っている施策の見直し、例えば価格や座席の位置の見直し、についても認知されていないことも要因だと考えている。今後は、更に認知を上げていくことに加え、ショーの間の休憩時間をカットし、遠い地域の方がお越しになる際の弊害を取り除いていこうと考えている。

Q3) 今後、訪日中国人の個人ビザ発給緩和や羽田・成田空港の拡張が見込まれており、外国人が日本に来やすい環境が整うと思う。これらの状況を踏まえ、足元の状況と、来期以降、外国人ゲストをどのように取り込んでいくのか聞きたい。

A3) 景気や、新型インフルエンザ、円高の影響などにより訪日外国人全体が前期より下がっている。昨年11月くらいから、訪日外国人が戻ってきており、その状況にあわせて、テーマパークの外国人ゲスト数の状況も変化してきている。今後は、訪日中国人の個人ビザ発給緩和や空港の拡張などがあるため、期待できるマーケットとして捉えている。当社では、遊びにいらした際にご不便がないよう、表示をわかりやすくするなど、パークサイドでの受け入れ体制を整えるとともに、営業的な観点では、中国のエージェントとの連携を強化するなど、集客の準備を進めている。

Q4) 来期の業績についてはどう考えたらいいか。

- A4) 足元では、計画通り順調に集客できているなど、来期のテーマパーク入園者数レベルは、中計通り 2,600 万人レベルを目指している。来期は、春に「イースター」をテーマにした新しいイベントを実施することに加え、新アトラクション「ミッキーのフィルハーマジック」を第 4 四半期に導入する。
- Q5) 一部のメディアでチケット価格の値上げについて言及されていたが、チケット価格の値上げは予定しているのか。
- A5) チケット価格改定については、一部のメディアに取り上げられているが、あくまでも、チケット価格改定をすることでアトラクションの投資回収をしていく、という当社のビジネスモデルをお伝えしたままであり、近いうちに価格を上げるということではない。  
ただし、テーマパークの魅力を高め続けていることもあり、景気が回復し、ゲストの皆さまに受け入れていただけるタイミングとなった際には、チケット価格の改定を検討することになると思っている。
- Q6) リテイル事業を売却するが、来期はリテイル事業の売上高が全て減収要因となるとみていいか。
- A6) その通りである。
- Q7) 第 4 四半期は、例年以上にコストがかかる予定はあるか。
- A7) コスト面では第 4 四半期への時期ずれおよび来期の先行費用それぞれで数億円レベルなので、今年度に限って何か大きいものが出るということはない。
- Q8) 上海ディズニーについて、香港ディズニーランドの時には全く影響がなかったと理解しているが、競合施設という点でどう考えているのか。また、シナジー効果として期待できることはあるか。
- A8) 競合というよりは、当社にとってはプラスの効果も期待できるとみている。というのも、中国では、まだまだディズニーに触れる機会が少ないため、上海にできることで認知度向上が期待できる。また、東京にはディズニーシーという世界に 1 つしかないパークがあることや、「東京」という都市自体が非常に人気のある観光地であること、また、政府が訪日外国人を増やす施策を強めていくことから、プラス効果が期待できると考えている。シナジーについては今お話できることはないが、できることがあればやっていきたいと考えている。
- Q9) 最近アトラクションとイベントの集客力が上がったと感じている。来期のテーマパーク入園者数は 2,600 万人レベルが当面のターゲットと考えられていると思うが、一段上に見込んだ計画が出てくる可能性はあるのか。
- A9) 来期は、東京ディズニーシー 10 周年の手前の年であるため、新しいアトラクションをオープンし、キャパシティを増やすことで受け入れ体制を整えたい。また、イースターをテーマとしたイベントを春に新しく行い、うまくいけば翌年につなげていきたいと考えている。更に、東京ディズニーシー 10 周年の時には「ファンタ

ズミック！」の導入を予定しており、来期は色々な意味で、準備の年だと考えている。

入園者数の来期計画については現在作成中のため、具体的な数については触れられないが、大切な年と位置づけている。

Q10) 新中期経営計画は、いつ発表になるか。また、そこには資本効率の向上、というテーマも含まれるか。

A10) 5月の期末決算にあわせて発表する予定である。また、資本効率の向上については、課題として十分認識している。

以上